

2月定例活動

## アカマツ林再生プロジェクト



不順な天候続きで雨が予想されていたのに、開会時には青空が広がり、ヒサカキの花も開花、独特の春の香りに山は包まれていました。最近はコンスタントに参加して下さる方が多く、20名での作業開始となりました。

当日は「タウンニュースてんぱく」の方が取材に来られて、まず全員で記念撮影。その後、眞弓さんからこれまでの経過及び当日の作業手順の説明を受けました。

これまで手入れしてきた個所には明らかに良好な変化が現れています。生き延びた松は生気を取り戻し、根元に

は多数の若松が育っています。

しかし、まだ手を付けていない場所では、ヒサカキ、アラカシ、ソヨゴ等が大きく育って松を攻め立て、地面は落ち葉で富栄養化しています。これまでどおり松の周りの雑木を除去して空間を確保、ごうかきで腐葉土を域外に出す方針で作業にかかりました。

大勢の力はすごく、またチェーンソーを使える方も参加していたので、作業はてきぱきと小気味よく進み、終了時にはアカマツ林がかなり拡大しました。いつかマツタケの採れる日が来るかも！

(伊藤 晶)

## 参加から1年を迎えて

早川 正則

小生にとって2月27日の定例活動日は記憶に残る一日となりました。

昨年の3月、萌木祭りから参加させていただくようになりこの日をもって1年のひとくりになったからです。

或る8時間スケジュールのトレッキングに参加したい一心で体力づくりも目指してお仲間にしていただきました。

まだまだですが、1年の継続は可能性も見いだせる域にはあろうかと自信らしきものを感じています。

アカマツ林を復活すべく親木のあるうちに手掛けることの意味を教わりました。尾根筋の痩せ地が好環境とのことも同様に…ただ、樹木の名前は勿論、価値も役割も判断できないので剪定には関われずもっぱら落ち葉処理に専念しました。

実生の若い松もまだまだ心許ないほどの細さ、それでも何年かの成長と聞き、自然の時間スパンを実感させられました。

自然の中に身を置くこと、そのことのみで与えられた生命力に、なにがしかのプラスアルファを頂いていると感じるのは私だけでしょうか。なお多くの方々に味わっていただきたいとも…

ホームグラウンドでの活動が一日も長く続けられることを願っています。

3月定例活動

## 第12回萌木祭り



菜種梅雨を思わせる毎日でしたが、当日は幸い青空に一転、寒さも忘れる夕々の陽気となりました。

我が家では、いつもは常夏のハワイに住む4歳の孫が来名していて、この日が滞在の最終日でした。かねてから孫を連れて里山活動を体験させたいと

の私の願いが叶えられました。

“萌木”にふさわしく、ツツジも可憐な花を現し始め、木々の芽も吹き出して自然の美しさに見とれました。

女性陣はこの日のためにぜんざいの用意を、他の会員は小屋近くの竹林の除伐とイモ畑の整備を行いました。その間を縫ってトンボ池のオタマジャクシを期待して行きましたが、未だ姿なく、幼子はそれでも池の周りでしばらく楽しんでおりました。それからアカマツ林まで森林浴をたっぷり受けながらの歩行、足取りのしっかりした成長ぶりにババ馬鹿を感じました。

孫が歩きながら“ここが気に入った (I like this place!)”と言ったときは、びっくりすると同時に私も大満足でした。その後、竹林の除伐も一緒にさせていただきました。お昼はお餅や掘りたてのタケノコを竹炭で焼いたり、またぜ

んざいを皆さんといただいたりしました。皆さんの優しい眼差しに囲まれて、おかげさまで事故もなく、うれしい一日を過ごすことができました。ありがとうございました。(河野)



▲小屋付近の雑木林に侵入した竹を除去した際、開花前のヤマザクラの巨木まわりも整備。